

【報告者】**【学 年】** 2年**【教科・単元名など】** 国語科「ふきのとう」「スイミー」**【実践内容】**

イメージを広げて、楽しく豊かな読み取りをさせたい。

4月「ふきのとう」

- ・実際にふきのとうを見せる。(かなり、とうがたっていたが・・・)

ふきのとうが土の中で、春が来るのを待っている。ということイメージさせる。

さらに、雪がのっているとどうなのか、軽いシートをしゃがんでいる子どもたちの頭の上に乗せてみた。「なんか、窮屈。」「暗い感じ。」

- ・1の場面が終わったところで、「劇団を作って、発表しよう。」の提案。

初めは、音読だけで表現していたが、動きもつけたいとの声があり、役を決めた後に考えた。

気持ちや状況から判断して、声の大きさ、話すスピード、抑揚などに気をつけて読むことができるようになった。

- ・授業参観で、見てもらおう。

情景まで、表現したいという思い。電気を消したり、つけたり。

終わりに、役ごとに挨拶。拍手をもらい満足。

- ・感想をもらいましょう。

発表後すぐに、感想を聞かせてもらった。

その日の日記にコメントを書いてもらった。子どもたちに紹介。

7月「スイミー」

- ・単元に入るとすぐに、子どもたちのほうから「劇団をやりたい。」という要望が出た。

「そのためには、どんなことを勉強していく必要があるのか。」の質問に

気持ちを読み取る。様子を読み取る。気持ちが伝わるように読む練習をする。という読みのめあてがすぐにできた。

時間がとれず、練習も発表もできていない。どこかで、発表をと考えている。

【反 省】

劇化させることで、「何のために読んでいるのか。」「なんで、登場人物の気持ちを考えるんだろう。」「国語は好きではないな。」と感じている子どもたちに、少しは、読み進める面白さを感じさせることができたのではないかと思う。また、保護者から感想をいただいたことで、次への意欲が高まった。気をつけなくてはいけないことは、言葉が大切であることを、忘れてはいけないことである。